



産業振興「新時代」の幕開け！

墨田区産業共創施設「SUMIDA INNOVATION CORE」



江戸時代から「ものづくりのまち」としての歴史を刻んできた墨田区。東京スカイツリー®開業以降は、観光分野も視野に入れ、産業のさらなる成長を模索し続けています。昨年10月にはスタートアップ企業の支援を軸として区内産業の活性化を図り、新産業を創出するための墨田区産業共創施設「SUMIDA INNOVATION CORE（SIC）」をオープンしました。

◆墨田区産業振興の歴史

墨田区ものづくりの歩みと 中小企業振興基本条例

墨田区の産業の興りは江戸時代から

で廻ります。江戸市中の大半が焼失し

た「明暦の大火（明暦3（1657）

年）で焼け出された武士が隅田川東岸

のこの地域に移住し、手仕事で生計を

立てたことがそもそもの始まりとされ

ています。明治初期には政商・西村勝

三氏が軍用の靴の生産を始めたことを

きっかけに鞆、ベルト、帽子、肌着な

ど、日用品の製造が盛んになりました。

明治から大正にかけて、国の殖産

興業政策の流れに乗り、メリヤス、皮

革、石けん、ゴム、ビール、印刷な

ど、日用雑貨を中心とした近代軽工業

の集積地となっていくきます。紡績所と

して創業したカネボウ（現・クラシ

エ）、石けんの製造から始まった花王

とライオンも墨田区が創業地です。

その後、金属系、プラスチック・ゴ

ム系、木工などの工場の集積も進み、

関東大震災や東京大空襲に遭いながら

も復興し、産業集積を保持・拡大。戦

後は日本の高度成長とともに発展し、

昭和45（1970）年には区内製造業

事業所数は9703事業所となりました。

しかしこのピークを境に、用地狭

小、公害、後継者不足、生産拠点の海

外移転などさまざまな問題から、区内

の製造業事業所数は減少していくこと

となります。

当時の墨田区ではこうした状況を打

破すべく、区内中小事業者の支援を

区政の重要な柱と位置付け、区職員が

区内全事業所に足を運ぶことによる

「中小製造業基本実態調査」を実施し、

その調査をもとに昭和54（1979）

年には他の自治体に先駆けて「墨田区

中小企業振興基本条例」を制定。中小

企業の振興に取り組むことを宣言しま

した。この条例に続き、昭和56

（1981）年には区内産業人、専門

家、区職員からなる「墨田区

産業振興会議」を設置し、主

要な産業振興施策を次々と打

ち出していきました。しかし

製造業はもとより、卸売・小

売業の事業者数も減少傾向に

転じ、その後のバブル経済に

よる地価・人件費の高騰、さらにバブ

ル崩壊による混乱が、区内事業者に大

きな打撃を与えました。



東京スカイツリー® 開業と「産業と観光の融合」

墨田区は、中小企業振興基本条例の策定以来、産業振興には尽力してきましたが、観光という概念はほとんどありませんでした。それが東京スカイツリーの建設が決定したことにより、観光客の誘致に注力することとなりました。墨田区のものづくりを1つの観光



資源と捉え、その現場に足を運んでもらう、区で生産した商品を買ってもらおうという方向で打ち出したのが、「産業と観光の融合」です。

具体的な取組としては、「すみだ3M運動」「すみだモダン」(左記参照)などのほか、墨田区の町工場を巡って製品が作られていく過程を見学する「スミファすみだファクトリーめぐり」(令和5年(2023年)休止、令和6年(2024年)より再開予定)などがあり、地域の人や事業者がホストとなって魅力を発信し、地域の活性化にも役立っています。

墨田区の魅力を伝える「すみだ3M運動」と「すみだモダン」

「すみだ3M運動」は、工場や店舗を利用して伝統工芸品、ガラス製品、革製品、食品、日用品、木工品などを展示する「小さな博物館」(Museum)(24館)、墨田区を代表するものづくりの職人「すみだマイスター」(Meister)(36人)、製品をつくる工房と販売する店舗が一体となった「工房ショップ」(Manufacturing shop)(18店)のMを頭文字に持つ3つの取組を通じて、墨田区の産業やものづくりの魅力を伝える事業です。「すみだモダン」は、墨田区の産業ブランド力を国内外にPRすることを目的に始まった産業プロモーション。事業者が実践する活動と商品を「すみだモダン」の名称でブランド認証しPRしているほか、事業者同士の共創を目指したコミュニティ運営、催事や展示会を通じた販路拡大のほか、新商品の開発等にも取り組んでいます。



墨田区の産業集積のアップグレードを見据えた新たな施策が始動

墨田区では、ものづくりのまちを今後も維持していくため、地域産業の新たな担い手呼び込み、時代の変化に対応できる産業集積へと変化させる必要があると考えるようになりまし。そこで、平成25(2013)年に、区外から様々な人材を呼び込み、ものづくりでのイノベーションを目指す場を整備する「新ものづくり創出拠点整備事業」をスタートしました。これは、空き工場等を活用し、区内企業が拠点を整備するためのインシヤルコストを区が補助するもので、運営は設置した区内企業が担います。この事業により10か所(現在の稼働は9か所)の拠点が整備され、その中でも特に「Garage Sumida」(設置・運営：株式会社浜野製作所)「co-lab 墨田 亀沢・re-printing」(設置・運営：株式会社サンコー)には、ものづくり系スタートアップ

やデザイナー・クリエイターが集まり、設置・運営企業の事業モデルにも好影響をもたらしました。この成功事例により、区外の人材との連携に大きな可能性を見出すことになり、次で述べるハードウェアスタートアップ拠点構想へとつながります。



co-lab 墨田亀沢：re-printing

「産業集積のアップデート」を目指すコア 産業共創施設

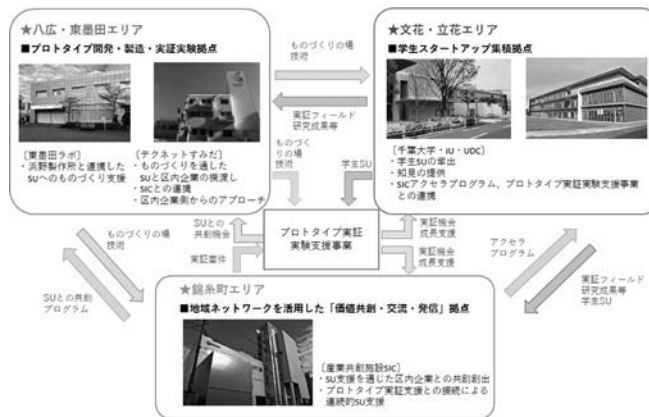
INNOVATION CORE

(SIC) を開設しました。

ハードウェアスタートアップ 拠点構想の中核施設

産業振興を軸に、経済、社会、環境への取り組みが循環するまちづくりをめざす墨田区は、この考えが評価され、2021年度に「SDGs未来都市」と「自治体SDGsモデル事業」に選定されました。これを契機として「産業振興を軸としたプロトタイプ実装都市」ものづくりによる『暮らし』のアップデート」をテーマに掲げ、スタートアップ企業を区内に誘引し、区内企業との連携を図る「ハードウェアスタートアップ拠点構想」に基づき、様々な事業を展開しています。

拠点としては、プロトタイプ開発・製造・実証実験拠点の「八広・東墨田エリア」、学生スタートアップ集積拠点の「文花・立花エリア」、地域ネットワークを活用した「価値共創・交流・発信」拠点の「錦糸町エリア」の3エリアを想定。多様な人々が集まり情報発信や交流に適した「錦糸町エリア」に昨年10月29日、構想の中核となる墨田区産業共創施設「SUMIDA



ハードウェアスタートアップ拠点構想

スタートアップ支援に加え 区内事業者の改革にも期待

「SUMIDA INNOVATION CORE」は、墨田区が運営するスタートアップ支援施設で、プレシード期・シード期と呼ばれる創業直前・直後のスタートアップをメインの支援対象としています。それは「墨田区内のものづくり事業者との共創を育み、ともに成長・持続的に発展させる」というもう1つの目的があるからです。ミドル期やレイター期のスタートアップでは、すでに事業モデルができており、製品を量産することなども視野に

入るため、中小や小規模企業の多い区内事業者では関係が築きにくい面があります。プレシード期・シード期のスタートアップであれば、区内事業者が事業計画の策定や試作の段階から関わる余地があり、両者がつながることは、区内事業者にとっても閉塞感の打破や技術転用など、新しい道が開けるきっかけになります。

SICにはスタートアップと区内事業者が会員として登録しています。こうした人たちが日常的に施設に足を運び、常駐するコミュニケーターのサポートを受けながら交流し、新しいものづくりの場として活用しています。



産業共創施設 SUMIDA INNOVATION CORE

墨田区錦糸4-17-1
ヒューリック錦糸町コラボツリー 4階

東京メトロ半蔵門線「錦糸町」駅より徒歩7分
JR線「錦糸町」駅より徒歩8分

開場時間／平日10時～21時、
土日・祝日10時～18時
閉場日／年末年始（12月29日～1月3日）



OFFICIAL SITE



Facebook



X (旧 Twitter)

用途に応じて活用できる 7つのスペース

SICCは、「THE CORE」と「THE STAR」の2つの部屋から構成されています。「THE CORE」は、アイデア創出から簡易なものづくり作業まで、さまざまな用途に使える共創スペースで、利用者同士の交流を促進する「オープンスペース」、作業に集中できる「コワーキングスペース」、商談や打ち合わせに使える「会議室」、スタートアップや区内事業者の製品を展示する「展示スペース」、気分転換やアイデア創出に最適な「小上がり和室」、簡易なものづくり作業を行える「作業スペース」の6つのブースに分かれています。「THE STAR」は、カンファレンスやイベントなどが行えるスペースで、プロジェクターや音響設備も使えます。

また、「コワーキングスペース」のソファは区内の革なめし工場の豚革張り、「会議室」のテーブルは区内の木工関係の会社と板金加工会社との共同製作、「小上がり和室」の畳は区内の畳店の製品であるなど、作業しながら墨田区のものづくりを体感できるようになっています。

スタートアップを支援する パートナー・メンター会員

SICCの運営がスタートして2カ月余りが経った令和5年12月末時点で、会員数は140者になりました。内訳は、スタートアップ会員が38者、区内事業者会員が20社、準会員が20者、残りがスタートアップを支える側のパートナー会員とメンター会員です。パートナー会員には、墨田区内にあるものづくり企業や大学、区外を含めた金融機関、ベンチャーキャピタル、企業、メディア、全国各地の支援機関・自治体等、多種多様な企業や団体が登録しています。区内事業者が兼務している例もあります。メンター会員には、スタートアップとしての先輩起業家、弁護士、税理士、会計士、行政書士等の多様な個人の支援者が登録しています。

また、SICCの運営面にも関わる事業連携パートナーという存在もあります。まちづくりと大学との連携を進める組織「アーバンデザインセンターすみだ」、墨田区に本店を置く「東京東信用金庫」、スタートアップ支援で多くの実績を有する区内事業者「浜野製作所」がこの位置付けになっています。

地域の人を対象とした イベントも実施し裾野拡大

SICCでは、共創創出や利用者の裾野拡大を目的としたイベントを定期的に開催しています。共創創出の要となるのは、「アクセラレーションプログラム」。これはスタートアップ向けの教育プログラムで、半年間をかけて事業計画の立案をサポートし、墨田区プロタイプ実証実験支援事業へのエントリーを、出口の一つとして位置付けています。裾野拡大のプログラムには小中学生を対象とした「すみだ子ども創造部」、一般区民も参加して新商品を生み出す方法を学ぶ「新商品アイデア発想ワークショップ」などがあり、幅広い世代の方々に墨田区がものづくりのまちであることを認識してもらうことを目的としています。

墨田区では、平成28年度から「人、つながる。墨田区」をブランドメッセージとしてシティプロモーションを展開しています。そしてこのブランドメッセージを体現する場が、スタートアップを支えて墨田区のものづくり事業者とつなげる産業共創施設のSICCなのです。

